

「いただきます」

インスタントラーメンが、ある日の昼食だった。

京都、コンビニもほど近い街の山。

わな猟師・千松信也ちまつしんやさんは、

自分で獲ったイノシシを、

薪ストーブで煮込み、スープにした。

薬味は、子供たちが畑で摘んだネギ。

仕上げに、飼っている鶏の卵を落とした。

家のまわりのものだけで食事ができた。

「命」を食べ「命」に変えている。

直径たった12cmのわなで、

広大な山のなか、まだ見ぬ獲物と知恵比べする。

捕らえられてもなお、

牙を鳴らし、荒い鼻息で抵抗するイノシシを制し、

ナイフでつく。

「命を奪うことに慣れることはない」



僕は 猟師になつた



獲って、さばいて、食べる

昨年、NHKで放送された「ノーナレ けもの道 京都いのちの森」には、再放送希望が異例の1141件も届きました。京都で、猟をする千松信也さんの、彼にとっては平凡な日常に取材したドキュメンタリーでした。イノシシやシカをわなでとらえ、木などで殴打し気絶させ、ナイフでとどめをさす。命と向き合うために千松さんが選んだ営みに、残酷、という非難をはるかに超える「憧憬」が集まりました。NHK取材班は、放送後、千松さんとその暮らしにさらに迫るため、約300日の追加取材を行い、およそ2年間の映像を編み直し、完全新生映画版が完成しました。

千松信也 1974年兵庫県生まれ。京都大学文学部在籍中に狩猟免許をとり、先輩猟師から伝統のくくりわな猟、無双網猟を学びました。現在は、運送会社で働きながら京都の山で猟をしています。鉄砲は持っていません。08年発行の『ぼくは猟師になった』（現在、新潮文庫）は「狩猟ブーム」を牽引することになりました。他の著書に『けもの道の歩き方 猟師が見つめる日本の自然』（リトルモア）『自分の力で肉を獲る10歳から学ぶ狩猟の世界』（旬報社）があります。

（語り）**池松壮亮** 日本映画界に欠かせない若き名優がナレーションを語りおろしました。千松さんに寄り添い、その独特な視線、思考、行動に観客をいざないます。



NHKの傑作ドキュメンタリー（ノーナレ「けもの道 京都いのちの森」再放送希望1141件！）が完全新生映画版に。追加取材300日超。知られざる猟師の暮らしに700日密着。



語り：池松壮亮 出演：千松信也 編集・構成：村本勝（J.S.E.） 撮影：松宮拓 現場録音：蓮池昭幸 整音：小川武 音楽：谷川賢作
MAスタジオ：サウンズ・ユー 映像技術：グッド・ジョブ プロデューサー：京田光広／伊藤雄介 監督：川原愛子 製作：NHKプラネット近畿
配給：リトルモア／マジックアワー www.magichour.co.jp/ryoushi 2020／日本／カラー／HD／16:9／5.1ch サラウンド／99分

6月6日（土）ロードショー！！

www.magichour.co.jp/ryoushi

特別鑑賞券 ¥1,400（税込）発売中！

（当日一般 ¥1,800 の処 / 一部劇場を除く）

ユーロスペース
EUROSPACE

渋谷・文化村前交差点左折
03-3461-0211 www.eurospace.co.jp